

つがる市総合文化祭

市文化団体協議会（藤田明夫会長）主催による「第10回つがる市総合文化祭」が11月2、3日の2日間、生涯学習交流センター「松の館」を主会場に開催されました。舞台公演部門では、市内の文化団体が手踊り、コーラス、レクリエーションダンスなど多彩なステージを披露。作品展示部門では、生け花、手工芸、写真などが展示され、訪れた市民らの目を楽しませていました。



オープニングの日舞を披露するつがる秀宝会



つがる逍遙会



車力京和会



レディースつがる



稲垣レクダンスサークル



稲垣カラオケ教室



こよりで作られた縄文遮光器深鉢





大正琴琴友会



童謡「薔の会」



コーラス「華」



山百合会



歌謡教室こころうた



木造カラオケ教室



つがる宝生会



藤 瑩 会



柏健康レクダンス



大正琴名和会

作品展示部門
松の館ロビー・視聴覚室
木造体育センター



ふるさととの魅力発信考える 地域の魅力まるごと情報発信シンポジウム



情報発信について議論されたパネルディスカッション

「地域の魅力まるごと情報発信シンポジウム」が11月16日、柏ふるさと交流センターで開催され、市民ら約600人が「地域からの情報発信」の在り方について理解を深めました。これは、市が来年2月に迎える合併10周年の記念事業として、一般財団法人自治総合センターと共催。特別講演とパネルディスカッションを通してさまざまな角度からふるさとの魅力発信について語り合いました。

特別講演 吉 幾三氏

「東京から見た津軽、住んで見ていた津軽」



東京に出てみて気付いたことは「ふるさとは物はないが、人情がある」ということ。ふるさとを誇りに思い、いつも心の中

にふるさどがあります。恥ずかしくて、話すのが怖かった津軽訛りの言葉も今では自分の持ち味だと思っています。

私は15歳で歌手を目指して上京し、本物の人、物、音楽と出

会うことができました。電話連絡も満足に出来なかった昔に比べ、今は飛行機や新幹線など交通機関も発達し、携帯電話もあります。若い人は、広い視野で物事をとらえるためにも、一度都会へ出てみるべきだと思います。自分の人生は自分で決めなければいけません。挫折もあるかもしれませんが、その分、人は強くなれます。

住んでいる身の回りに魅力はあるはず。都会などから若い人がたくさんつがる市に来て、「第二のふるさと」と言われるように、環境やまちづくり、人づくりを皆さんが力を合わせながら進めるべきだと思います。

パネルディスカッション

「地域の魅力をまるごと情報発信で地域を元気に！」



川嶋 大史氏
(つがるフィルムコミッション会長)

ふるさと自慢がまちCM大賞受賞、つがる市をロケ地としたショートムービー「けの汁」や日中友好映画「明日に架ける愛」と、映像による地域振興に取り組まれました。地域ぐるみで作った映像がいろいろな所で波及するのはうれしいし、波及の連鎖が期待できるのが映像の特色だと思います。



上野由加里氏
(青森放送アナウンサー)

地元では当たり前のことでも、都会の人にとっては新鮮で魅力的に感じることあります。大学時代に青森を離れて初めて、魅力にあふれる地元に気付きました。魅力的なまちはその住む人が元氣。住民一人一人が仕掛け人となって、魅力を発信すれば、積み重ねて大きな力になると思います。



田中 清一氏
(ドラキュラdeまち(おこし実行委員会)代表)

七戸町民1000人会議で地元の活性化を話し合い、ドラキュラを活用したまちおこしを始めた。自分たちでも楽しみなが、PRを続けています。



山口 修一氏
(つがる市総務部長)

つがる市は、農業のまちなので、合併以来農産物のブランド化に取り組む、農家の所得向上を目指してきました。平成18年には、主要農産物8品目を組み合わせたマスコットキャラ「つがるちゃん」が誕生。市長とともに全国各地のトップセールスに参加し、農産物を積極的にPRしています。



千村 利光氏
(映画監督)

映像は今やどこからでも発信できる時代。津軽からでも発信できますが、都会に出てみることで価値観が変わります。増加している自己発信のメディアの活用でも世間が広くなります。帰りたいと思えるふるさとがあるのは幸せなこと。ポジティブにいろいろな所に目を向けるべきだと思います。



農産物をPRしたつがるちゃん

※このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施しています。

五所川原西バイパス開通

津軽自動車道



「通り初め」が行われた五所川原西バイパス

五所川原北IC（五所川原市太刀打）とつがる柏IC（つがる市柏稲盛）を結ぶ津軽自動車道「五所川原西バイパス」が11月3日開通し、五所川原市で記念式典が開催されました。

三村申吾県知事らのあいさつに続いて、福島市長は「地域の活性化や生活の利便性向上に計り知れない効果が期待できる」と開通の喜びを述べ、国、県、地元の関係者とのテープカットで完成を祝いました。地元の児童を代表して、テープカットに参加した工藤妃香さん（柏小5年）は「新しい道路を通ってお買い物に行きたい」と話していました。式典後、「通り初め」が実施され、パトカーを先導にバスやトラックなどに乗った参加者が、次々と3.8kmの道のりをパレードしました。

自覚と誇り持ち新たな一歩

柏小創立30周年記念式典

10月25日、柏小学校（猪股義仁校長）で創立30周年記念式典が行われ、全校児童と関係者らが節目を祝い、決意を新たにしました。

昭和59年に旧柏村内の柏第一、第二、第三の3小学校を統合して誕生した同校は、今年3月までに1763人の児童が卒業しており、現在の児童数は290人。式典で猪股校長は「柏小学校の児童や教職員としての自覚と誇りを持ち、新たな伝統を築くため力の限りを尽くしましょう」と式辞を述べました。また、佐々木浩巳PTA会長や葛西岨輔教育長のあいさつに続き、歴代校長や歴代PTA会長ら18人に表彰状を贈り、同校発展への功績をたたえ、最後に児童全員で校歌を斉唱しました。



元気に校歌を斉唱する児童たち

伝統受け継ぎ発展誓う

車力中統合50周年記念式典



全校生徒が手話を使った合唱を披露

車力中学校（佐々木孝次校長）で10月18日、統合50周年記念式典が行われ、在校生114人と保護者らが節目を祝い、未来へ向け伝統を守ることが誓いました。

同校は、昭和39年に車力中、富蒔中、牛潟中の3中学校が統合して発足。50年間で5782人が卒業しています。

式典では、生徒を代表して3年生の工藤閑生徒会長が「先輩たちが築いた歴史と伝統を受け継ぎ、さらに発展させたい」と記念スローガンに掲げた「継往開来」の誓いを述べました。

また、同校では、教職員や生徒が一体となってさまざまな記念行事を実施。この日は車力地区の風景や住民を収めた生徒製作の記念映像や全校生徒による手話を使った合唱が披露されました。